

平成28年度（仮称）寺山公園屋内教養施設建設 工事設計図

仕様書

共通仕様

1.本共通仕様及び特記仕様に記載されていない事項は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成25年版」（以下「標準」という。）による。
なお、改修工事部分がある場合は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成25年版」（以下「改修標準」という。）による。

2.標準に用いられている用語を次のとおり読み替える。
(1)「契約書」を「新潟市契約規則による帳票規定(昭和41年4月1日訓令第9号)別記様式第6号の2の工事請負契約約款（以下「約款」という。）」、及びその他の関連要綱」に読み替える。
(2)「監督職員」を「監督員」に読み替える。
(3)「特記仕様書」を「特記仕様」に読み替える。
3.次の各号に該当する標仕の項目について、標仕の規定を別表に置き換えて適用する。
(1) 1章 1.1.2.用語の定義の(1)及び(21)
(2) 〃 1.4.2.材料の品質等の(a)及び(b)
(3) 〃 1.4.4.材料の検査等の(a)
(4) 〃 1.6.1.工事検査の(b)及び(d)
4.次に掲げる標仕の規定は、適用しない。
1章 1.1.2 用語の定義の(22)
〃 1.6.2 技術検査

別表（建築工事）

号	項 目	置 き 換 え 後 の 標 仕 の 規 定
	1章 一般共通事項	
(1)	1.1.2 用語の定義	(1)「監督員」とは、約款第10条の規定により受注者に通知された者をいう。 (21)「工事検査」とは、約款に規定する次の各事項の確認をするために発注者又は検査職員が行う検査をいい、工事の施工体制、施工状況、出来形、品質及び出来ばえの検査を含む。 ①工事の完成(約款第32条) ②部分払の請求に係る出来形部分又は部分払指定工事材料等(約款第38条) ③部分引渡しに供する工事の完成(約款第39条) ④契約の解除時における出来形部分(約款第48条) ⑤その他 新潟市請負工事検査要綱第5条に定める検査 (新潟市請負工事検査要綱第5条)
(2)	1.4.2 材料の品質等	(a)工事に使用する材料は「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）契約時の最新版」の名簿に記載されている品目については、当該名簿に記載されている材料又は製造所の製品とするほか、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。ただし、仮設に使用する材料は、新品でなくてもよい。 (b)使用する材料が、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料を監督員に提出する。 ただし、JIS又はJASのマーク表示のある材料を使用する場合及びあらかじめ監督員の承諾を受けた場合(次の(1)から(3)のいずれかに該当する材料を使用する場合は、あらかじめ監督員の承諾を受けたとみなすことができる。)は、資料の提出を省略することができる。 (1)建築基準法その他の認定品で、マーク等の確認ができる材料 (2)建築材料・設備機材等品質性能評価事業（一般社団法人 公共建築協会所管事業）で評価され建築材料等評価名簿に記載されている材料又は製造所の製品（特記で標仕の規定に基づく品質、及び性能以外を規定した場合を除く。） (3)特記により指定された材料又は製造者の製品
(3)	1.4.4 材料の検査等	(a)現場に搬入した材料は、種別ごとに監督員の検査を受ける。 ただし、次の(1)若しくは(2)に該当する場合またはあらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、この限りでない。 (1)工事完成検査時または工事写真で、JIS若しくはJASのマークを確認できる場合 (2)建築基準法その他の認定品と指定された材料で、工事完成検査時または工事写真で品質、性能を証明するマーク等を確認できる場合
(4)	1.6.1 工事検査	(b)約款に規定する部分払を請求する場合は、当該請求に係る出来形部分等の算出方法について監督員の指示を受けるものとする。 (d)新潟市請負工事検査要綱第5条に定める検査を受けるものとする。

特記仕様

1.項目は、番号に印の付いたものを適用する。
2.特記事項は、印の付いたものを適用する。
印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
印と※印の付いた場合は、共に適用する。
3.特記事項に記載の() 内の表示番号は、標仕の当該項目、当該図または当該表を示す。
なお、(参考) は標仕の各部配筋参考図を表す。
4.製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また() 内は製品名を示す。

章 一般共通事項

項目	特記事項
① 工事実績情報の登録	別添の特記仕様書による。(1.1.4)
2 概成工期	※無し (有)工期 平成 年 月 日 (1.2.1)
③ 品質計画等	建築基準法に基づき指定する条件 (1.2.2) 地区の区分に応じた風速 (V ₀ (m/sec)) 3.0 3.2 地表面粗度区分 I II III IV 多雪地域の指定 積雪区分 建造示第1455号 別表 (3.0)
④ 監理技術者の要件	※監理技術者を専任して配置する必要がある場合、建築工事の施工に関し10年以上の実務経験を有する者を配置すること。
5 電気保安技術者	・要() ・不要 (1.3.3)
⑥ 発生材の処理等	(1.3.8)
7 特別な材料の工法	
⑧ 技能士	(1.5.2)
⑨ 見本施工	※実施しない ・実施する() (1.5.5)
⑩ 化学物質の濃度測定	2.4追加特記 1室内空気有機化学物質低減対策による。(1.5.9)
⑪ 完成図等	※下記のものを作成し提出する。なお、作成方法・部数等は、監督員の指示による。 案内図及び配置図 平面図 立面図 断面図 (1.7.1～1.7.3) 仕土表 建物の保全に関する説明書(取扱説明書を含む)。 室内空気測定調査報告書 ※A3縮小製本図3部 ※図面データ (JWN、CAD7-7-4、PDF7-7-4) ・その他他監督員が指定した図面
⑫ 施工図等の取扱	当該工事で作成される施工図等の著作権について、受注者は全ての著作権を発注者に譲渡するものとする。また、受注者は、著作権人格権を行使しないものとする。
⑬ 工事完成写真	工事完了後整理のうえ監督員に提出する。 ※提出部数3部 写真の電子データ提出
⑭ 特別完成写真	写真専門業者の撮影した外観カラー写真1部提出する。 大きさ ※キャビネ ・半紙 ・写真の電子データの提出
⑮ 工事施工状況写真	※工事施工状況写真の撮影は、工事に係る材料、施工及び品質管理の状況が確認できるように行うものとし、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 工事写真の撮り方 改訂第3版 建築編」を参考に、撮影計画書を作成して、監督員に提出する。 ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、撮影計画書の作成を省略できる ※提出部数1部 ・別途工事区分表による。
⑯ 設備工事との取合い	
⑰ 監督員事務所等	・監督員事務所・10・20・35・65・㎡程度を設ける。(2.3.1) ・仮設事務所の中に監督員用空間を ㎡程度確保する。
⑱ 監督員用備品等	監督員用備品として、下記のものを工事期間中常備する。(2.3.1) ・保護帽37個（新潟市章及び新潟市を記入） ・雨具3着 ・長靴3足 ・安全帯3組
⑳ 工事用水	構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる（※有償 ・無償）
㉑ 工事用電力	構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる（※有償 ・無償）
㉒ 仮設建物等	現場事務所、倉庫、下小屋等の仮設建物の位置はあらかじめ監督員の承諾を受ける。

仮設工事

1 監督員事務所等	・監督員事務所・10・20・35・65・㎡程度を設ける。(2.3.1) ・仮設事務所の中に監督員用空間を ㎡程度確保する。
2 監督員用備品等	監督員用備品として、下記のものを工事期間中常備する。(2.3.1) ・保護帽37個（新潟市章及び新潟市を記入） ・雨具3着 ・長靴3足 ・安全帯3組
3 工事用水	構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる（※有償 ・無償）
4 工事用電力	構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる（※有償 ・無償）
5 仮設建物等	現場事務所、倉庫、下小屋等の仮設建物の位置はあらかじめ監督員の承諾を受ける。

外部足場

※枠組足場 ○さび繫結式足場 ・その他 ()
足場は、「手すり先行工法に関するガイドラインについて」(厚生労働省 基発第0424001号 平成21年4月24日)の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中せん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」2の(2)手すり据置方式、又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
A種 B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した (3.2.3)(表3.2.1)
処理土
構内指示の場所(・敷き均し ○建機) (3.2.5)
・構外搬出適切処理(指定場所：)
・処分地未特定のため、場内仮置きとし契約後変更とする

① 埋戻し及び盛土
② 建設発生土の処理
④ 試験
試験杭 (4.2.1～4.2.4)
位置、本数及び寸法 ※図示 ・監督員の指示による
・杭の載荷試験 ・鉛直載荷試験 ・水平載荷試験
試験位置 ※図示 載荷荷重 N/mm2
・地盤の載荷試験 ※平板載荷試験
試験位置 ※図示 載荷荷重 50kN/㎡
種類 (4.3.1)(4.3.2)
・速心力高強度プレストレストコンクリートく (PHC杭)
・外殻鋼管付きコンクリートく (SC杭)
・プレストレスト鉄筋コンクリートく (PRC杭)
地盤改良
杭径 (mm) 杭長(m)及び種別 継手箇所数 長期設計支持力(kN/本) セット数等
本 杭 800φ 3.60 — 130kN/㎡
1000φ 3.60 — 130kN/㎡
先導部形状 ※開放形 ・閉そく平たん形 (4.3.2)
施工法 (4.3.3～4.3.5)
・特定埋込み杭工法(建築基準法に基づく埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの)
・セメントミルク工法 支持地盤への掘削深さ ・1.5m程度 ・支持地盤への掘入れ深さ ・1m以上 ・打込み工法
水平方向の位置ずれ精度 ・100mm以下 ・mm以下
杭の継手 ※アーク溶接 () ・無溶接継手 (4.3.6)
杭頭処理 ※切断しない (4.3.7)
コンクリートの種別及び設計基準強度 (4.5.3)(表4.5.1)
() 種かつ () N/? 以上
掘削工法 ・アースドリル工法(※安定液使用 ・無水掘削) (4.5.4)
・リバース工法
・オールケーシング工法(孔内の水張 ※行方 ・行わない)
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.5)
・掘込杭工法 (※安定液使用 ・)
孔壁測定 ・行方 ・行わない (4.5.4～4.5.5)
※再生クラッシュラン ・切込み砂利及び切込み砕石 (4.6.2)
施工箇所 ※建物内の土間及び土間コンクリート(以下を除く) (4.6.5)
・ 図示による(ポリエチレンフィルム)

① 鉄筋の種別 (5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	呼び 径 (mm)	備 考
・SD390	D29	異形鉄筋
・SD345	D19～D25	異形鉄筋
・SD295A	D10～D16	異形鉄筋

② 鉄筋の継手 ※ス圧接 ○重ね継手 ・機械式継手 ・溶接継手 (5.3.4)
継手位置 ※各部配筋参考図による ・図示
最小かぶり厚さは目地底から算定する (5.3.5)
○耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による

施 工 箇 所	表5.3.6の値に加える寸法(mm)
土に接する柱	※10

④ 帯 筋 (参考2.2)
5 最上階柱頭補強 ※行方 ・行わない (参考2.1)
6 壁開口部の補強 一般壁 ※A形 ・B形 ・図示 (参考4.4)
耐震壁 ※図示
⑦ 梁貫通孔の補強形式 (参考7.1)
・既製品(建築基準法による指定又は認定を受けたもの)
⑧ 圧接完了後の抜取試験 (5.4.9)
※超音波探傷試験 ・引張試験

① 普通コンクリートの設計基準強度 (6.2.2)

設計基準強度 Fc(N/?)	施 工 箇 所	スラップ
※24	○建物躯体	○5・18
○21	○土間コンクリート・設備基礎	○5・18
○18	○なしコンクリート ・ラップルコンクリート	○5

※構造体コンクリート：免注強度=設計基準強度(F_c)×構造体強度補正係数(S)
※Ⅰ類 ・Ⅱ類 (6.2.1)(表6.2.1)
※Ⅰ類については、JIS Q 1001及びJIS Q 1011に基づき、JIS A 5308(以下に示すコンクリート)に適合するものを用いるものとする。
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1)
・高炉セメントB種 ()
普通ポルトランドの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7d	—	測定値を報告する。
	28d	—	測定値を報告する。
全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)		
塩化物イ>	0.035%以下		

コンクリート工事

① 普通コンクリートの設計基準強度 (6.2.2) <table><thead><tr><th>設計基準強度 Fc(N/?)</th><th>施 工 箇 所</th><th>スラップ</th></tr></thead><tbody><tr><td>※24</td><td>○建物躯体</td><td>○5・18</td></tr><tr><td>○21</td><td>○土間コンクリート・設備基礎</td><td>○5・18</td></tr><tr><td>○18</td><td>○なしコンクリート ・ラップルコンクリート</td><td>○5</td></tr></tbody></table> ※構造体コンクリート：免注強度=設計基準強度(F _c)×構造体強度補正係数(S) ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 (6.2.1)(表6.2.1) ※Ⅰ類については、JIS Q 1001及びJIS Q 1011に基づき、JIS A 5308(以下に示すコンクリート)に適合するものを用いるものとする。 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ・高炉セメントB種 () 普通ポルトランドの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table><thead><tr><th>水和熱</th><th>7d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr><tr><th></th><th>28d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr></thead><tbody><tr><td>全アルカリ</td><td colspan="3">0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)</td></tr><tr><td>塩化物イ></td><td colspan="3">0.035%以下</td></tr></tbody></table>	設計基準強度 Fc(N/?)	施 工 箇 所	スラップ	※24	○建物躯体	○5・18	○21	○土間コンクリート・設備基礎	○5・18	○18	○なしコンクリート ・ラップルコンクリート	○5	水和熱	7d	—	測定値を報告する。		28d	—	測定値を報告する。	全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)			塩化物イ>	0.035%以下		
設計基準強度 Fc(N/?)	施 工 箇 所	スラップ																										
※24	○建物躯体	○5・18																										
○21	○土間コンクリート・設備基礎	○5・18																										
○18	○なしコンクリート ・ラップルコンクリート	○5																										
水和熱	7d	—	測定値を報告する。																									
	28d	—	測定値を報告する。																									
全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)																											
塩化物イ>	0.035%以下																											
② コンクリートの種別 (6.2.1)(表6.2.1) ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 (6.2.1)(表6.2.1) ※Ⅰ類については、JIS Q 1001及びJIS Q 1011に基づき、JIS A 5308(以下に示すコンクリート)に適合するものを用いるものとする。 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ・高炉セメントB種 () 普通ポルトランドの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table><thead><tr><th>水和熱</th><th>7d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr><tr><th></th><th>28d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr></thead><tbody><tr><td>全アルカリ</td><td colspan="3">0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)</td></tr><tr><td>塩化物イ></td><td colspan="3">0.035%以下</td></tr></tbody></table>	水和熱	7d	—	測定値を報告する。		28d	—	測定値を報告する。	全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)			塩化物イ>	0.035%以下														
水和熱	7d	—	測定値を報告する。																									
	28d	—	測定値を報告する。																									
全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)																											
塩化物イ>	0.035%以下																											
③ セメントの種類 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ・高炉セメントB種 () 普通ポルトランドの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table><thead><tr><th>水和熱</th><th>7d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr><tr><th></th><th>28d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr></thead><tbody><tr><td>全アルカリ</td><td colspan="3">0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)</td></tr><tr><td>塩化物イ></td><td colspan="3">0.035%以下</td></tr></tbody></table>	水和熱	7d	—	測定値を報告する。		28d	—	測定値を報告する。	全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)			塩化物イ>	0.035%以下														
水和熱	7d	—	測定値を報告する。																									
	28d	—	測定値を報告する。																									
全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)																											
塩化物イ>	0.035%以下																											

鉄骨工事

① 鉄骨の種別 (5.2.1)(表5.2.1) <table><thead><tr><th>種類の記号</th><th>呼 び 径 (mm)</th><th>備 考</th></tr></thead><tbody><tr><td>・SD390</td><td>D29</td><td>異形鉄筋</td></tr><tr><td>・SD345</td><td>D19～D25</td><td>異形鉄筋</td></tr><tr><td>・SD295A</td><td>D10～D16</td><td>異形鉄筋</td></tr></tbody></table> ② 鉄筋の継手 ※ス圧接 ○重ね継手 ・機械式継手 ・溶接継手 (5.3.4) 継手位置 ※各部配筋参考図による ・図示 最小かぶり厚さは目地底から算定する (5.3.5) ○耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による <table><thead><tr><th>施 工 箇 所</th><th>表5.3.6の値に加える寸法(mm)</th></tr></thead><tbody><tr><td>土に接する柱</td><td>※10</td></tr></tbody></table> ④ 帯 筋 (参考2.2) 5 最上階柱頭補強 ※行方 ・行わない (参考2.1) 6 壁開口部の補強 一般壁 ※A形 ・B形 ・図示 (参考4.4) 耐震壁 ※図示 ⑦ 梁貫通孔の補強形式 (参考7.1) ・既製品(建築基準法による指定又は認定を受けたもの) ⑧ 圧接完了後の抜取試験 (5.4.9) ※超音波探傷試験 ・引張試験	種類の記号	呼 び 径 (mm)	備 考	・SD390	D29	異形鉄筋	・SD345	D19～D25	異形鉄筋	・SD295A	D10～D16	異形鉄筋	施 工 箇 所	表5.3.6の値に加える寸法(mm)	土に接する柱	※10																									
種類の記号	呼 び 径 (mm)	備 考																																							
・SD390	D29	異形鉄筋																																							
・SD345	D19～D25	異形鉄筋																																							
・SD295A	D10～D16	異形鉄筋																																							
施 工 箇 所	表5.3.6の値に加える寸法(mm)																																								
土に接する柱	※10																																								
② 鉄骨の製作工場 (7.1.3) ・監督員の承諾する製作工場 ・建築基準法第7条の4第5項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた㈱日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「Mグレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 (7.1.3)(7.1.4)																																									
③ 施工管理技術者 (7.1.3)(7.1.4) ※適用する ・適用しない																																									
④ 鋼材 (7.2.1)(表7.2.1) <table><thead><tr><th>種類の記号</th><th>使用 箇 所</th><th>規格等</th></tr></thead><tbody><tr><td>・SD400B</td><td>大梁・片持梁・内ダイヤフラム・吊材(T1)</td><td>※JIS規格による</td></tr><tr><td>・SD295</td><td>柱</td><td>※JIS規格による</td></tr><tr><td>・SDTK400</td><td>円形鋼管柱</td><td>※JIS規格による</td></tr><tr><td>・SD400</td><td>小梁・座屈止・間柱・耐風梁</td><td>※JIS規格による</td></tr><tr><td>・SD490C</td><td>通しダイヤフラム・ベースプレート</td><td>※JIS規格による</td></tr><tr><td>・SDTKR400</td><td>間柱</td><td>※JIS規格による</td></tr></tbody></table> ※のり高力ナット・JIS形高力ナット・溶融亜鉛めっき高力ナット (7.2.2) 高力ナット及び普通ボルトの端部距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2) ※国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による。 ・図示 ※国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による。 ・図示 (7.6.4) ※図示による ・監督員の指示による (7.6.7)	種類の記号	使用 箇 所	規格等	・SD400B	大梁・片持梁・内ダイヤフラム・吊材(T1)	※JIS規格による	・SD295	柱	※JIS規格による	・SDTK400	円形鋼管柱	※JIS規格による	・SD400	小梁・座屈止・間柱・耐風梁	※JIS規格による	・SD490C	通しダイヤフラム・ベースプレート	※JIS規格による	・SDTKR400	間柱	※JIS規格による																				
種類の記号	使用 箇 所	規格等																																							
・SD400B	大梁・片持梁・内ダイヤフラム・吊材(T1)	※JIS規格による																																							
・SD295	柱	※JIS規格による																																							
・SDTK400	円形鋼管柱	※JIS規格による																																							
・SD400	小梁・座屈止・間柱・耐風梁	※JIS規格による																																							
・SD490C	通しダイヤフラム・ベースプレート	※JIS規格による																																							
・SDTKR400	間柱	※JIS規格による																																							
⑤ 開口形状 (7.6.4) ※図示による ・監督員の指示による (7.6.7)																																									
⑥ スカラップ (7.6.7) ※図示による ・監督員の指示による (7.6.11)(表7.6.2) <table><thead><tr><th>検査水準</th><th>※第6水準</th><th>・図示</th><th>試験箇所</th><th>試験方法</th></tr></thead><tbody><tr><td>○超音波探傷試験</td><td>○突合せ溶接部</td><td></td><td></td><td>※標仕7.6.11(b)による</td></tr><tr><td>・放射線試験</td><td></td><td></td><td></td><td>・図示</td></tr><tr><td>・マクロ試験</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ⑦ 鋼板きね溶接 ・アークスポット溶接 (7.7.8) ・隅肉溶接 ・(7.9.2～7.9.7)	検査水準	※第6水準	・図示	試験箇所	試験方法	○超音波探傷試験	○突合せ溶接部			※標仕7.6.11(b)による	・放射線試験				・図示	・マクロ試験																									
検査水準	※第6水準	・図示	試験箇所	試験方法																																					
○超音波探傷試験	○突合せ溶接部			※標仕7.6.11(b)による																																					
・放射線試験				・図示																																					
・マクロ試験																																									
⑧ デッキプレートの溶接 (7.9.2～7.9.7) 10 耐火措置																																									
⑨ アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.10.3) ・建方用ナットナット(A種 ・B種 ・C種) (表7.10.1) ※A種 ・B種 (表7.10.2)																																									
⑩ 柱底均しモルタル (表7.10.2) ※A種 ○B種 (表18.3.1)																																									
1 建築用コンクリートブロック (8.2.2) <table><thead><tr><th>断面形状及び圧縮強さによる区分</th><th>正味厚さ(mm)</th><th>通 用 箇 所</th></tr></thead><tbody><tr><td>※空洞70×116</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・空洞70×116-W</td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ※図示 ・監督員の指示による (8.2.5) 3 ALCパネル (8.4.2～8.4.5)(表8.4.2)(表8.4.4) <table><thead><tr><th>種 別</th><th>単位荷重(N/㎡)</th><th>厚さ(mm)</th><th>取付け工法種別等</th></tr></thead><tbody><tr><td>・外壁パネル</td><td>・1180 ・1960</td><td>・100</td><td>・A種 ・B種</td></tr><tr><td>※平パネル</td><td>・120</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・意匠パネル</td><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・間仕切パネル</td><td>・80 ・100</td><td>・C種 ・D種 ・E種</td><td></td></tr><tr><td>※平パネル</td><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・屋根パネル</td><td>・980</td><td>・100</td><td>※標仕8.4.5による</td></tr><tr><td>・床パネル</td><td>・2350 ・3530</td><td>・100 ・150</td><td>耐火性能・有り(・1時間・2時間)</td></tr></tbody></table>	断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	通 用 箇 所	※空洞70×116			・空洞70×116-W			種 別	単位荷重(N/㎡)	厚さ(mm)	取付け工法種別等	・外壁パネル	・1180 ・1960	・100	・A種 ・B種	※平パネル	・120			・意匠パネル	・			・間仕切パネル	・80 ・100	・C種 ・D種 ・E種		※平パネル	・			・屋根パネル	・980	・100	※標仕8.4.5による	・床パネル	・2350 ・3530	・100 ・150	耐火性能・有り(・1時間・2時間)
断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	通 用 箇 所																																							
※空洞70×116																																									
・空洞70×116-W																																									
種 別	単位荷重(N/㎡)	厚さ(mm)	取付け工法種別等																																						
・外壁パネル	・1180 ・1960	・100	・A種 ・B種																																						
※平パネル	・120																																								
・意匠パネル	・																																								
・間仕切パネル	・80 ・100	・C種 ・D種 ・E種																																							
※平パネル	・																																								
・屋根パネル	・980	・100	※標仕8.4.5による																																						
・床パネル	・2350 ・3530	・100 ・150	耐火性能・有り(・1時間・2時間)																																						

鉄骨工事

① 鉄骨の種別 (5.2.1)(表5.2.1) <table><thead><tr><th>種類の記号</th><th>呼 び 径 (mm)</th><th>備 考</th></tr></thead><tbody><tr><td>・SD390</td><td>D29</td><td>異形鉄筋</td></tr><tr><td>・SD345</td><td>D19～D25</td><td>異形鉄筋</td></tr><tr><td>・SD295A</td><td>D10～D16</td><td>異形鉄筋</td></tr></tbody></table> ② 鉄筋の継手 ※ス圧接 ○重ね継手 ・機械式継手 ・溶接継手 (5.3.4) 継手位置 ※各部配筋参考図による ・図示 最小かぶり厚さは目地底から算定する (5.3.5) ○耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による <table><thead><tr><th>施 工 箇 所</th><th>表5.3.6の値に加える寸法(mm)</th></tr></thead><tbody><tr><td>土に接する柱</td><td>※10</td></tr></tbody></table> ④ 帯 筋 (参考2.2) 5 最上階柱頭補強 ※行方 ・行わない (参考2.1) 6 壁開口部の補強 一般壁 ※A形 ・B形 ・図示 (参考4.4) 耐震壁 ※図示 ⑦ 梁貫通孔の補強形式 (参考7.1) ・既製品(建築基準法による指定又は認定を受けたもの) ⑧ 圧接完了後の抜取試験 (5.4.9) ※超音波探傷試験 ・引張試験	種類の記号	呼 び 径 (mm)	備 考	・SD390	D29	異形鉄筋	・SD345	D19～D25	異形鉄筋	・SD295A	D10～D16	異形鉄筋	施 工 箇 所	表5.3.6の値に加える寸法(mm)	土に接する柱	※10
種類の記号	呼 び 径 (mm)	備 考														
・SD390	D29	異形鉄筋														
・SD345	D19～D25	異形鉄筋														
・SD295A	D10～D16	異形鉄筋														
施 工 箇 所	表5.3.6の値に加える寸法(mm)															
土に接する柱	※10															
② コンクリートの種別 (6.2.1)(表6.2.1) ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 (6.2.1)(表6.2.1) ※Ⅰ類については、JIS Q 1001及びJIS Q 1011に基づき、JIS A 5308(以下に示すコンクリート)に適合するものを用いるものとする。 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ・高炉セメントB種 () 普通ポルトランドの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table><thead><tr><th>水和熱</th><th>7d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr><tr><th></th><th>28d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr></thead><tbody><tr><td>全アルカリ</td><td colspan="3">0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)</td></tr><tr><td>塩化物イ></td><td colspan="3">0.035%以下</td></tr></tbody></table>	水和熱	7d	—	測定値を報告する。		28d	—	測定値を報告する。	全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)			塩化物イ>	0.035%以下		
水和熱	7d	—	測定値を報告する。													
	28d	—	測定値を報告する。													
全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)															
塩化物イ>	0.035%以下															
③ セメントの種類 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ・高炉セメントB種 () 普通ポルトランドの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table><thead><tr><th>水和熱</th><th>7d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr><tr><th></th><th>28d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr></thead><tbody><tr><td>全アルカリ</td><td colspan="3">0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)</td></tr><tr><td>塩化物イ></td><td colspan="3">0.035%以下</td></tr></tbody></table>	水和熱	7d	—	測定値を報告する。		28d	—	測定値を報告する。	全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)			塩化物イ>	0.035%以下		
水和熱	7d	—	測定値を報告する。													
	28d	—	測定値を報告する。													
全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)															
塩化物イ>	0.035%以下															

コンクリート工事

① 普通コンクリートの設計基準強度 (6.2.2) <table><thead><tr><th>設計基準強度 Fc(N/?)</th><th>施 工 箇 所</th><th>スラップ</th></tr></thead><tbody><tr><td>※24</td><td>○建物躯体</td><td>○5・18</td></tr><tr><td>○21</td><td>○土間コンクリート・設備基礎</td><td>○5・18</td></tr><tr><td>○18</td><td>○なしコンクリート ・ラップルコンクリート</td><td>○5</td></tr></tbody></table> ※構造体コンクリート：免注強度=設計基準強度(F _c)×構造体強度補正係数(S) ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 (6.2.1)(表6.2.1) ※Ⅰ類については、JIS Q 1001及びJIS Q 1011に基づき、JIS A 5308(以下に示すコンクリート)に適合するものを用いるものとする。 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ・高炉セメントB種 () 普通ポルトランドの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table><thead><tr><th>水和熱</th><th>7d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr><tr><th></th><th>28d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr></thead><tbody><tr><td>全アルカリ</td><td colspan="3">0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)</td></tr><tr><td>塩化物イ></td><td colspan="3">0.035%以下</td></tr></tbody></table>	設計基準強度 Fc(N/?)	施 工 箇 所	スラップ	※24	○建物躯体	○5・18	○21	○土間コンクリート・設備基礎	○5・18	○18	○なしコンクリート ・ラップルコンクリート	○5	水和熱	7d	—	測定値を報告する。		28d	—	測定値を報告する。	全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)			塩化物イ>	0.035%以下		
設計基準強度 Fc(N/?)	施 工 箇 所	スラップ																										
※24	○建物躯体	○5・18																										
○21	○土間コンクリート・設備基礎	○5・18																										
○18	○なしコンクリート ・ラップルコンクリート	○5																										
水和熱	7d	—	測定値を報告する。																									
	28d	—	測定値を報告する。																									
全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)																											
塩化物イ>	0.035%以下																											
② コンクリートの種別 (6.2.1)(表6.2.1) ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 (6.2.1)(表6.2.1) ※Ⅰ類については、JIS Q 1001及びJIS Q 1011に基づき、JIS A 5308(以下に示すコンクリート)に適合するものを用いるものとする。 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ・高炉セメントB種 () 普通ポルトランドの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table><thead><tr><th>水和熱</th><th>7d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr><tr><th></th><th>28d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr></thead><tbody><tr><td>全アルカリ</td><td colspan="3">0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)</td></tr><tr><td>塩化物イ></td><td colspan="3">0.035%以下</td></tr></tbody></table>	水和熱	7d	—	測定値を報告する。		28d	—	測定値を報告する。	全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)			塩化物イ>	0.035%以下														
水和熱	7d	—	測定値を報告する。																									
	28d	—	測定値を報告する。																									
全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)																											
塩化物イ>	0.035%以下																											
③ セメントの種類 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ・高炉セメントB種 () 普通ポルトランドの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table><thead><tr><th>水和熱</th><th>7d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr><tr><th></th><th>28d</th><th>—</th><th>測定値を報告する。</th></tr></thead><tbody><tr><td>全アルカリ</td><td colspan="3">0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)</td></tr><tr><td>塩化物イ></td><td colspan="3">0.035%以下</td></tr></tbody></table>	水和熱	7d	—	測定値を報告する。		28d	—	測定値を報告する。	全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)			塩化物イ>	0.035%以下														
水和熱	7d	—	測定値を報告する。																									
	28d	—	測定値を報告する。																									
全アルカリ	0.75%以下 算出は、JIS R 5210の試験方法(低7d値による。)																											
塩化物イ>	0.035%以下																											

鉄骨工事

① 鉄骨の種別 (5.2.1)(表5.2.1) <table><thead><tr><th>種類の記号</th><th>呼 び 径 (mm)</th><th>備 考</th></tr></thead><tbody><tr><td>・SD390</td><td>D29</td><td>異形鉄筋</td></tr><tr><td>・SD345</td><td>D19～D25</td><td>異形鉄筋</td></tr><tr><td>・SD295A</td><td>D10～D16</td><td>異形鉄筋</td></tr></tbody></table> ② 鉄筋の継手 ※ス圧接 ○重ね継手 ・機械式継手 ・溶接継手 (5.3.4) 継手位置 ※各部配筋参考図による ・図示 最小かぶり厚さは目地底から算定する (5.3.5) ○耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による <table><thead><tr><th>施 工 箇 所</th><th>表5.3.6の値に加える寸法(mm)</th></tr></thead><tbody><tr><td>土に接する柱</td><td>※10</td></tr></tbody></table> ④ 帯 筋 (参考2.2) 5 最上階柱頭補強 ※行方 ・行わない (参考2.1) 6 壁開口部の補強 一般壁 ※A形 ・B形 ・図示 (参考4.4) 耐震壁 ※図示 ⑦ 梁貫通孔の補強形式 (参考7.1) ・既製品(建築基準法による指定又は認定を受けたもの) ⑧ 圧接完了後の抜取試験 (5.4.9) ※超音波探傷試験 ・引張試験	種類の記号	呼 び 径 (mm)	備 考	・SD390	D29	異形鉄筋	・SD345	D19～D25	異形鉄筋	・SD295A	D10～D16	異形鉄筋	施 工 箇 所	表5.3.6の値に加える寸法(mm)	土に接する柱	※10					
種類の記号	呼 び 径 (mm)	備 考																			
・SD390	D29	異形鉄筋																			
・SD345	D19～D25	異形鉄筋																			
・SD295A	D10～D16	異形鉄筋																			
施 工 箇 所	表5.3.6の値に加える寸法(mm)																				
土に接する柱	※10																				
② 鉄骨の製作工場 (7.1.3) ・監督員の承諾する製作工場 ・建築基準法第7条の4第5項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた㈱日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「Mグレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 (7.1.3)(7.1.4)																					
③ 施工管理技術者 (7.1.3)(7.1.4) ※適用する ・適用しない																					
④ 鋼材 (7.2.1)(表7.2.1) <table><thead><tr><th>種類の記号</th><th>使用 箇 所</th><th>規格等</th></tr></thead><tbody><tr><td>・SD400B</td><td>大梁・片持梁・内ダイヤフラム・吊材(T1)</td><td>※JIS規格による</td></tr><tr><td>・SD295</td><td>柱</td><td>※JIS規格による</td></tr><tr><td>・SDTK400</td><td>円形鋼管柱</td><td>※JIS規格による</td></tr><tr><td>・SD400</td><td>小梁・座屈止・間柱・耐風梁</td><td>※JIS規格による</td></tr><tr><td>・SD490C</td><td>通しダイヤフラム・ベースプレート</td><td>※JIS規格による</td></tr><tr><td>・SDTKR400</td><td>間柱</td><td>※JIS規格による</td></tr></tbody></table> ※のり高力ナット・JIS形高力ナット・溶融亜鉛めっき高力ナット (7.2.2) 高力ナット及び普通ボルトの端部距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2) ※国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による。 ・図示 ※国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による。 ・図示 (7.6.4) ※図示による ・監督員の指示による (7.6.7)	種類の記号	使用 箇 所	規格等	・SD400B	大梁・片持梁・内ダイヤフラム・吊材(T1)	※JIS規格による	・SD295	柱	※JIS規格による	・SDTK400	円形鋼管柱	※JIS規格による	・SD400	小梁・座屈止・間柱・耐風梁	※JIS規格による	・SD490C	通しダイヤフラム・ベースプレート	※JIS規格による	・SDTKR400	間柱	※JIS規格による
種類の記号	使用 箇 所	規格等																			
・SD400B	大梁・片持梁・内ダイヤフラム・吊材(T1)	※JIS規格による																			
・SD295	柱	※JIS規格による																			
・SDTK400	円形鋼管柱	※JIS規格による																			
・SD400	小梁・座屈止・間柱・耐風梁	※JIS規格による																			
・SD490C	通しダイヤフラム・ベースプレート	※JIS規格による																			
・SDTKR400	間柱	※JIS規格による																			
⑤ 開口形状 (7.6.4) ※図示による ・監督員の指示による (7.6.7)																					
⑥ スカラップ (7.6.7) ※図示による ・監督員の指示による (7.6.11)(表7.6.2) <table><thead><tr><th>検査水準</th><th>※第6水準</th><th>・図示</th><th>試験箇所</th><th>試験方法</th></tr></thead><tbody><tr><td>○超音波探傷試験</td><td>○突合せ溶接部</td><td></td><td></td><td>※標仕7.6.11(b)による</td></tr><tr><td>・放射線試験</td><td></td><td></td><td></td><td>・図示</td></tr><tr><td>・マクロ試験</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ⑦ 鋼板きね溶接 ・アークスポット溶接 (7.7.8) ・隅肉溶接 ・(7.9.2～7.9.7)	検査水準	※第6水準	・図示	試験箇所	試験方法	○超音波探傷試験	○突合せ溶接部			※標仕7.6.11(b)による	・放射線試験				・図示	・マクロ試験					
検査水準	※第6水準	・図示	試験箇所	試験方法																	
○超音波探傷試験	○突合せ溶接部			※標仕7.6.11(b)による																	
・放射線試験				・図示																	
・マクロ試験																					
⑧ デッキプレートの溶接 (7.9.2～7.9.7) 10 耐火措置																					
⑨ アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.10.3) ・建方用ナットナット(A種 ・B種 ・C種) (表7.10.1) ※A種 ・B種 (表7.10.2)																					
⑩ 柱底均しモルタル (表7.10.2)<																					